



佐高

スーパー グローバル ハイスクール

SGH通信 2020

No. 31 (2020年11月9日発行)

SGH マレーシア班・英語による研究中間発表会 ～宇都宮大学教授の大久保達弘先生と on-line で～

2020年11月6日(金)に、SGHクラブ海外班のうち、マレーシア班の佐高生15名が、中間発表会を行いました。生徒たちは、海外の高校生(マレーシア・サラワク州クチン市にあるセントテレサ校)とZoomやon-lineチャットを使って協働研究を進めています。今回はその成果の中間発表を行いました。使用言語は英語です。そのため、佐高英語科教員2名と、本校の学習指導員のKushal Kamat先生に審査員を務めて頂きました。また、宇都宮大学農学部教授の大久保達弘先生、本校SGH非常勤講師の赤堀雅人先生にもZoomを通して御参加いただき、講評や助言を頂くことができました。

・助言、講評

大久保 達弘 先生(宇都宮大学農学部教授) 赤堀 雅人 先生(本校SGH非常勤講師)

・審査員(助言、講評も行う)

大嶋 浩行(英語科)、片柳 哲也(英語科)、Kushal Kamat, 高久 順(地歴科)

・司会者 出井 公人(2年)



●Group5 出井公人(2) 原悠馬(2) 磯田新太(1)

「Clothing Recycling(衣料リサイクルの課題と解決策)」

大意「日本のペットボトル回収率が80%を超える中、衣料のそれは24%にとどまり、大量廃棄が行われている。公的衣料回収boxを設置したい。更には創造的なアップサイクルを考え提案したい。」大久保先生「製造後の3Rではなく、製造前段階からも考えよう。」



●Group1 相田紘夏(2) 内田小温(2) 大嶋美聖乃(2)

「What is true learning?(新しい教育観とは何か)」

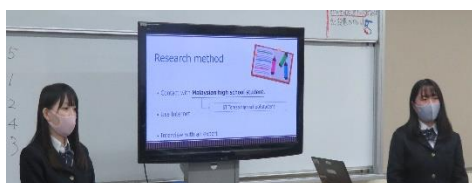
大意「入試に受かるための学力にとどまらない、これからの社会に必要な探究型学力としての新しい3つの力を伸ばす教育と、その伸びを測るルーブリックのような客観的な指標・評価法を開発したい。」大久保先生「グッド!能力とコンピテンシーの違いに注意しよう」



●Group2 影山結麻(1) 後藤秋浜(2) 山本悠貴(2)

「Happy happy littering(海洋プラスチックの削減)」

大意「ゴミ拾い運動を提案したが、肉体労働に対する両国間の文化の差を感じた。そこで、例えばごみ捨てが人気投票になるような、「楽しく捨てる」ことができるゴミ箱のアイデアを考え提案したい」大久保先生「なるほど。事実と意見は区別することを意識しよう」



●Group4 飯塚莉子(1) 岸愛梨(1) 山崎彩加(1)

「Is the world gender equality?(ジェンダーの平等)」

大意「日本とマレーシアともにジェンダー差が大きい国にランクされている。そこで意識啓発に向けてInstagramを立ち上げた。ぜひ来場の皆さんもこのQRコードから参加し、一緒に考えていこう」赤堀先生「私も皆さんのInstagramを楽しみにしています」



●Group3 小松崎寛人(1) 関根圭汰(1) 横塚功樹(1)

「Recommendations for new lifestyles(新しい生活習慣)」

大意「コロナのような感染症は、高血圧や肥満などの基礎疾患保有者の重症化リスクが高い。そこで長野県の佐久総合病院の若月俊一医師の取組みを参考に、基礎疾患率を減らすアイデアを提案したい」赤堀先生「研究対象をさらに絞ると、楽しい研究になるでしょう」